

弥生俳句・短歌集

みなみうわ俳句会

水仙や風を過ごして真直ぐ立つ
 松飾り心の余裕とり戻す
 昔むかし恵比須回しを追いかけて
 初春や勇姿を見せし鶯の舞う
 もち花の染めた空間幸福色
 初春のかもめ大漁旗に舞う
 遠き日より友駆けて来る初便り
 冬の夜は賢治の詩の近くあり
 電線はバイオリンの弦虎落笛

御荘俳句会

春雨や声をかけたき傘の内
 春蘭や高き値札のついたまま
 春潮のひたりひたりと朱の鳥居
 春立つやより猛くなり護摩供養
 啓蟄や石に居座る陶蛙
 正座して天目椀に見る余寒
 檳榔子
 春なれや空海仏も毬を手に

はじめまして。赤ちゃん。

1月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
御荘平山	金子 誠	洋彦
御荘長月	湯浅 千寿	良彦
城 辺 甲	阿蘇 彩芽	久典
御荘菊川	尾崎 琉偉	史俊
城 辺 甲	松岡 聖明	人健
増 田	小笠原 詩輝	樹和
緑 乙	元 大	将輝
福 浦	猪崎 波留	久和

ご冥福をお祈りします。

1月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
城 辺 乙	菊地 カヅ	95歳
正 木	岡原 吉	87歳
城 辺 甲	竹田 哲夫	71歳
城 辺 甲	前田 明子	81歳
広 見	山本 貞	91歳
魚 神	良大 下	86歳
久 本	一松 徹	92歳
久 本	良中 田	94歳
城 辺 甲	添岡 寛	79歳
蓮 乘	寺岩 虎	96歳
御荘長洲	久保 博	83歳
船 越	川山 本	88歳
小 成	川甲 瀬	87歳
城 辺 甲	良本 多	67歳
久 本	吉崎 美	79歳
御荘平山	吉本 三	74歳
御荘平城	松本 治	85歳
御荘菊川	山本 子	79歳
満 倉	樋口 一	77歳
中 泊	吉田 清	79歳
垣 内	坂本 清	81歳
広 見	大田 寛	91歳
御荘平城	岸田 子	78歳
城 辺 乙	田村 美	92歳
柏	清水 美	93歳
御荘平城	山中 子	84歳
城 辺 甲	久徳 仁	74歳
城 辺 甲	松永 安	97歳
城 辺 甲	中川 安	86歳
御荘菊川	末廣 茂	92歳
柏 崎	中村 力	89歳

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。

宮下 峰月	瀨 初榮	木村 智子	長尾 則夫	矢鋪 都	中川千代子	小島 泰子	田口ひさ子	若林八重子	山本 金子	尾崎 松恵	加洲勢津子	濱野 康子
-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

日捲りへ託す一日の新暦
 二日はやランナーにあるころざし
 初日記言葉ふくらむペンの先
 初春の光を肩に参拝す
 縄跳びの子が早春の風回す
 夫の腰お灸の毎日睦月なり
 冬ざるる風の矢受けし篠の道
 七草や足らぬ一種水菜切る

西海俳句会

春よ来い畑耕運機かけ終えて
 一月のわさび芽の出る厨かな
 幼囲み笑う媪や初御堂
 平凡に年重ねたり老の春
 帰省子の背丈くらべる大晦日
 新くさの葉短歌会(はこべ)

ともかくも山も峠ものりこえてかしわ手をうつ心しずめて
 帰りゆく娘を送り来し足どりに一人にもどる気魄を持ちぬ
 正月の三日もすぎて吾が部屋に今朝は一人のコーヒー入れる
 爆音の響けど姿見えぬまま雲間にへりの音は消えゆく
 笑い声とび出しそうな孫の顔のメールを見つつはさむ朝食
 娘ふたりありたることの幸せをしみじみ思ふみ葬り終へて

倉田美津枝
 市川コマエ
 斉藤トミ子
 長田ハル子
 西崎 文恵
 前田 充

